

健康で安全、安心なあじ豚生産農場の生産システム

2011年6月3日

農場管理獣医師

(有)シガスワインクリニック

志賀明

宮崎県の中核に位置する児湯郡川南町は2010年4月に発生した口蹄疫によって、すべての豚、牛を失ってしまいました。いろんな要因がもたらした大きな伝染病でした。同年8月27日に終息宣言が出され、幸いにもそれ以降の発生はなく今に至っています。

日本の養豚は1農場で、全国平均で約1,500頭を飼養しています。一か所に多くの豚が飼われていますから人間社会と同様に少なからずいろんな病気の危険にさらされています。また、豚のいろんな病気の中でも厄介な病気があります。それがウィルス病で、世界で一番被害が大きいとされているものが豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)です。

ゲシュマックは川南町の中央部に位置し、販売されているあじ豚の直営生産農場やそのグループ農場はゲシュマックの周辺近郊にあります。川南町は豚だけでなく、牛や鶏の生産農場が多数存在し、まさに畜産の町です。口蹄疫発生で牛、豚がいなくなり、町の様相は一変してしまいました。

しかし、豚がいなくなってしまった川南町を中心に、昨年8月に周辺の1市5町の養豚農場が、西都児湯新生養豚プロジェクト協議会(新生養豚プロジェクト)を設立しました。この組織はこの先10年、20年先までしっかりと養豚経営ができるよう、この地域の養豚農場が連携して地域防疫に取り組んで行こうという趣旨で設立されました。つまり地域ぐるみで健康で安全、安心な豚肉づくりを目指そうとするものです。

新生養豚プロジェクトは生産農場を中心に関係する市町や県などの行政や、飼料会社、種豚供給会社や獣医師等々の業界全体を網羅した組織です。一番問題になってきたPRRSや長年清浄化に取り組んできたオーエスキー病(AD)のない農場からの導入を義務付け、それらの病気のない豚の導入により、他の病気を含めて病気の少ない健康な豚肉作りを地域全体で取り組んでいくものです。

ゲシュマックがある西都児湯地域は、現状では日本国内でもっとも健康度の高い地域です。この地域内に直営農場宮崎第一ファームをはじめ、あじ豚生産グループ農場が存在します。あじ豚生産農場は新生養豚プロジェクトの防疫ルールに基づき、素豚の導入先の選定や導入後の着地検査の実施等を行っています。

PRRSやADのない素豚を導入し、生産、肥育していくことは、繁殖性や肥育効率を高めるとともに、PRRSやADに絡んで発生する他の疫病の発生予防にもつながり、抗生剤等の薬剤使用量を最低限に抑えることが可能になります。これまで、国内法に基づきそれをしっかりと遵守してきましたが、これからは日本の中で一番病気の少ない健康で、安全、安心な豚肉生産、供給ができることになりました。

さらに、あじ豚生産農場は生産段階の衛生レベルを向上させ、消費者の皆様により安全、安心な豚肉を

供給するため、生産過程で生じる生物的、化学的および物理的な危害要因を安全な範囲まで除去し、その行程を管理し、記録していくシステム(HACCP)に取り組み始めました。今年から国内での HACCP 認証が始まりますが、あじ豚生産農場も来年度の認証を目指しています。

このようにゲッシュマックが販売するあじ豚は、皆さんに喜ばれるおいしい豚肉であるとともに、地域と生産グループ農場の取組によって国内の他地域にない健康で安全、安心な豚肉をお届けできるシステムができています。これからも、あじ豚生産グループはこのシステムを維持し、今以上の衛生管理を徹底していくため監視体制、管理体制の整備、改善、強化にまい進していきたいと考えています。